

入生田菌類誌資料 No.022

トベラ ペスタロチア病菌

Pestalotiopsis paeoniae (Servazzi) Steyaert

宿主：トベラ *Pittosporum tobira* (Thunb.) Aiton

子囊菌門 Ascomycota チャワソウタケ亜門 Pezizomycotina フンタマカビ綱 Sordariomycetes

クロサイワイタケ亜綱 Xylariomycetidae クロサイワイタケ目 Xylariales アンフィスファエリア科 Amphisphaeriaceae

供試標本

KPM-NC0017237, 2010年4月8日, 入生田妙力寺林道, 神田多・赤堀千里・福井道子・佐々木シゲ子・小林美紀採集, 小林享夫同定.

肉眼的特徴

葉の表の葉縁に、不整形で灰褐色の病斑を生じる。病斑上に、小黑点(分生子層)を多数散生する。

顕微鏡の特徴

分生子は、19.4-28.7 × 5.6-8 μm、楕円形で上下で細まる；5細胞からなり、中央の3細胞は淡褐色で中央細胞はやや色が濃く、上下の細胞は無色、中央の3細胞は、長さ11.9-17.5 μm；頂部と尾部に付属糸があり、頂部の付属糸は(2-)3本で、長さ14.9-23.8 μm、尾部の付属糸は1本で、2.6-6.9 μmである。

ノート

日本での *Pestalotiopsis paeoniae* の報告はなく、イタリアでシャクヤクの茎上から報告されている。日本新産種による新病害に相当するものだが、ここでの本菌の記述は予報的なもので、小林(享)らによる植物病理学的な検討が行われたのちに後日正式に発表される予定である(小林(享)私信)

本標本の宿主のトベラはスダジイを主にした照葉樹林の林道沿いにあるが、本来の生育環境とは異なるためスダジイの生育状態はよくない。

罹病した葉を温室培養すると、分生子層から黒い角状の塊(分生子塊)があらわれる。

文献

岸 國平編, 1998. 日本植物病害大事典. p.1114. 全国農村教育協会, 東京.

小林享夫・勝本 謙・我孫子和雄・阿部恭久・柿島 眞編, 1992. 植物病原菌類図説. p.426. 全国農村教育協会, 東京.

米山勝美・夏秋啓子・瀧川雄一・堀江博道・有江 力編, 2006. 植物病原アトラス. p.208. ソフトサイエンス社, 東京.

担当：佐々木シゲ子・赤堀千里
監修：小林享夫



図1. 葉表の病徴.

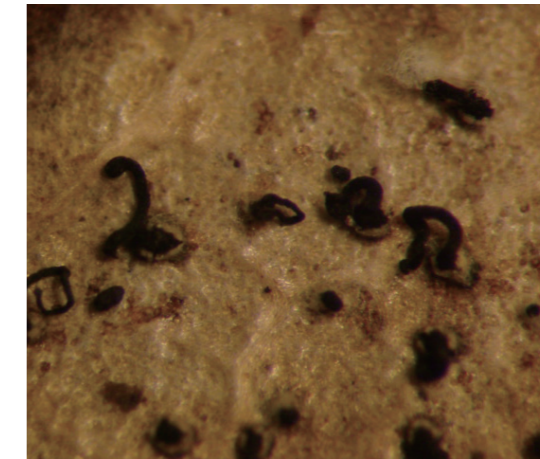


図2. 角状の分生子塊.

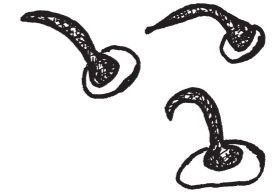


図3. 角状の分生子塊.

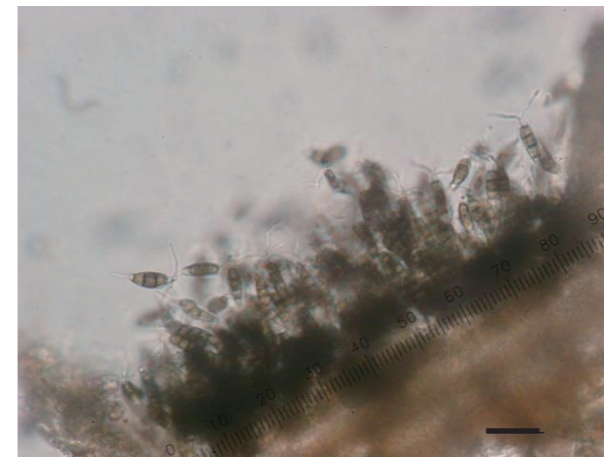


図4. 分生子層断面. bar: 25 μm.

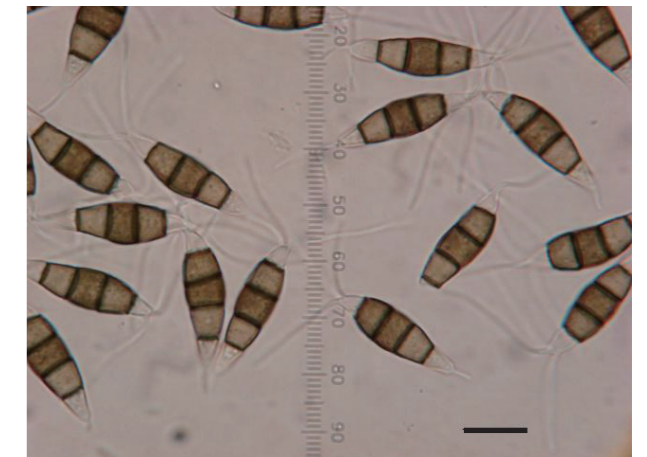


図5. 分生子. bar: 10 μm.



図6. 分生子層断面. bar: 25 μm.

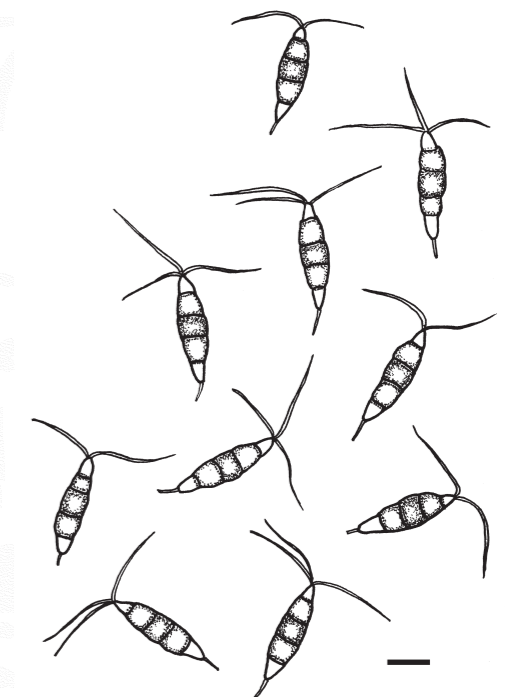


図7. 分生子. bar: 10 μm.